

■収益認識に関する仕訳 ヒント

1. 商品を引き渡した A 商品のみの売価をもって売上（収益）を計上する。また、対価については、顧客との契約から生じた債権となっていないため、売掛金として処理しないことに留意する。
2. 商品を引き渡した B 商品のみの売価をもって売上（収益）を計上する。また、対価については、A・B 商品ともに商品を引き渡したため法的な請求権が確定したことから、売掛金（資産）を増加させる。
3. 商品を引き渡す前に、対価を受け取ったときは、受取額をもって契約負債（負債）を増加させる。
4. 1 つの契約の中で、それぞれ別個の履行義務と識別しているため、D 製品については引き渡したことで履行義務を充足したことから売価をもって売上（収益）を計上する。保証サービスについては時の経過に応じて履行義務を充足するため、対価の受取額をもって契約負債（負債）を増加させる。
5. 保証サービスについて時の経過により履行義務を充足したため、時の経過に応じて役務収益（収益）を計上する。
6. 商品を販売するさいにリベートの条件が設定されているため、リベート相当額をもって返金負債（負債）を増加させる。
7. あらかじめ設定されていたリベートの条件が達成されたため、リベート相当額をもって返金負債（負債）を減少させる。
8. 一定の期間にわたり履行義務を充足するため、決算日時点での履行義務の充足にかかる進捗度に応じて役務収益（収益）を計上する。また、サービス提供にかかった当期の費用については役務原価（費用）を計上する。

■収益認識に関する仕訳 基本仕訳

●契約資産

①履行義務を充足したが、まだ法的な請求権が確定していない。

(借)	契	約	資	産	×××	(貸)	売	上	×××
-----	---	---	---	---	-----	-----	---	---	-----

②履行義務を充足するとともに、法的な請求権が確定した。

(借)	売	掛	金	×××	(貸)	売	上	×××		
						契	約	資	産	×××

③工事の設計などを請け負う契約にもとづき、決算日時点における履行義務の充足に係る進捗度に応じた金額を収益として認識する。

(借)	契	約	資	産	×××	(貸)	役	務	収	益	×××
-----	---	---	---	---	-----	-----	---	---	---	---	-----

●契約負債

(1)一時点で履行義務を充足する場合

①商品を販売する契約を結び、手付金として現金を受け取った。

(借)	現	金	×××	(貸)	契	約	負	債	×××
-----	---	---	-----	-----	---	---	---	---	-----

②販売契約にもとづき、商品を売り上げ、手付金を差し引いた残額は掛とした。

(借)	契	約	負	債	×××	(貸)	売	上	×××
	売	掛	金	×××					

(2)一定の期間にわたり履行義務を充足する場合

①後日に実施予定の講座（受講期間1年）の受講料金を現金で受け取った。

(借)	現	金	×××	(貸)	契	約	負	債	×××
-----	---	---	-----	-----	---	---	---	---	-----

②すでに受講料金を受け取っている講座の一部のサービス提供が完了した。

(借)	契	約	負	債	×××	(貸)	役	務	収	益	×××
-----	---	---	---	---	-----	-----	---	---	---	---	-----

(3)複数の履行義務を含む場合

①製品および当該製品の保証サービス（保証期間1年）を販売し、代金は当座預金口座に振り込まれた。

(借)	当	座	預	金	×××	(貸)	売	上	×××	
						契	約	負	債	×××

(借) 契 約 負 債 × × × (貸) 役 務 収 益 × × ×

①リベートの条件を設定されている商品を掛で販売した。

(借)	売	掛	金	×××	(貸)	売		上	×××	
						返	金	負	債	×××

(借) 返 金 負 債 ××× (貸) 未 払 金 ×××

資産	契約資産 売掛金
負債	契約負債 買掛金 返金負債 未払金
収益	売上 役務収益
費用	仕入 役務原価